2022年度事業報告書 及び附属明細書

自 2022(令和4)年4月 1日
至 2023(令和5)年3月31日

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2
公益財団法人 日 本 音 楽 財 団

目次

I	概要	1
II	公益目的事業「楽器の貸与事業を通じた音楽文化の振興・普及」	2
	1. 楽器の保全	2
	2. 楽器の貸与	2
	3. 演奏会の開催	8
	4. 音楽文化振興・普及のための助成	13
	5. 広報活動	15
III	総務	20
	1. 役員の異動	20
	2. 理事会	20
	3. 評議員会	20
	4. 監事監査	21
	5. 登記事項	21
	6. 主務大臣(内閣府)への届出等	21
	7. 外部監査の実施	21
	8. 広報活動「ランチタイムコンサート」(中止)	21
	9. 事務局	21

[巻末別紙]

1.	理事・監事・評議員名簿	22
2.	委員名簿	23
3.	保有楽器の概要	24
4.	楽器名と被貸与者一覧	29

I 概 要

日本音楽財団は、1974年3月に音楽文化の振興と普及に寄与することを目的として設立され、2012年4月に公益財団法人に移行してからは、公益目的事業「楽器の貸与事業を通じた音楽文化の振興・普及」の下に、1.楽器の保全、2.楽器の貸与、3.演奏会の開催、4.音楽文化振興・普及のための助成の4つの柱を置いて事業を推進している。

2023年3月末現在、世界最高クラスの弦楽器21挺(ストラディヴァリウス・ヴァイオリン15挺、チェロ3挺、ヴィオラ1挺、ガールネリ・デル・ジェス・ヴァイオリン2挺)を保有している。

すべての事業は、日本財団の助成金を受けて下記のとおり実施した。

1. 楽器の保全

(1) 楽器の保守管理

保有する弦楽器を当財団の指定楽器商で定期保守を実施した。

(2) 楽器への保険の付保

万が一の事故に備え、保有する21挺の弦楽器に、日本の保険会社2社を通じて保険を付保した。

(3) ATA カルネ

楽器を国外へ持ち出す際には、海外の税関で免税扱いの一時輸入通関ができるATAカルネの携帯を義務付けている。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う渡航制限によりATAカルネの更新に支障が出ていたが、2022年4月に日本への渡航制限が緩和されたことにより、本年度は通常どおりにATAカルネの更新ができた。

2. 楽器の貸与

保有する21挺の楽器は、国籍を問わず将来性が見込まれる若手演奏家等は無償で貸与されている。

コロナ禍における日本の渡航制限により貸与を一時中断していた楽器は、2022年4月に渡航制限の規制が緩和されたことにより貸与を再開した。

3. 演奏会の開催

本年度は、①演奏会の定期開催、②全国のオーケストラとの共同事業、③NHK交響楽団との共演の3つを柱として12公演を計画したが、出演者の体調不調により1公演が中止となり11公演の実施となった。

また、「北極サークル日本フォーラム」の「ジャパン・ナイト」において被貸与者によるコンサートを実施した。

4. 音楽文化振興・普及のための助成

法人格を有し非営利活動・公益事業を行う団体に対して、助成対象を、①弦楽器演奏において音楽的、技術的向上を目的とする事業、②より多くの人々に優れた弦楽器演奏を鑑賞する機会を提供する事業に限定して公募し、事業運営委員会で採択された11事業に対して助成した。

II 公益目的事業

「楽器の貸与事業を通じた音楽文化の振興・普及」

1. 楽器の保全

(1) 楽器の保守管理

保有する21挺の楽器の修理、調整等については、ストラディヴァリウス等の名器の取扱いに慣れている楽器商を指定し実施しており、各被貸与者には、年4回の当財団指定楽器商での定期保守を義務付けている。修理費用は当財団が全て負担することで、楽器の修理・調整に関する記録を全て管理・保管し、楽器の状態把握に努めている。ワシントン条約・CITES (Convention on International Trade in Endangered Species of Wild Fauna and Flora: 絶滅の恐れのある野生動植物の国際間取引規制条約) の規制により、特にアメリカ合衆国で通関ができない事例が発生していたため、当財団では全ての保有楽器に対して当財団の指定楽器商によりワシントン条約・CITES 適用除外証明書 (Declaration of Materials) を発行し、被貸与者には楽器と共に常に携帯することを義務付けている。

保有する楽器は製作後約300年が経過し大規模な修理が必要なものが出てきていることから、これに対応するために特定費用準備資金(大規模楽器修理)を積み立てている。

(2) 楽器への保険の付保

全ての楽器に保険を付保し当財団が保険料全額を支払っている。本年度も東京海上日動火災保険㈱と三井住友海上火災保険㈱の2社に楽器保険を付保した。

(3) ATA カルネ*

被貸与者等が保有楽器を国外へ持ち出す際には、ATA カルネの携帯を義務付けてATA カルネを使用して通関できない国への楽器の持ち込みを禁止している。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う日本への入国制限により、被貸与者が来日できずATA カルネの更新が困難となり貸与を一時中断していた楽器があったが、2022年4月より入国制限が緩和されATA カルネ更新ができるようになった。

*「物品の一時輸入のための通関手帳に関する条約(ATA 条約)」に基づく一時免税通関手帳。

国外へ一時的に物品を持ち込む場合、税関で手軽に「免税扱いの一時輸入通関」ができるほか、外国への輸入税の支払や保証金が不要となる。

2. 楽器の貸与

当財団は保有する弦楽器を、国籍を問わず国際的に活躍する演奏家や若手有望演奏家に無償で貸与している。

楽器の貸与については、財団のホームページ等で応募方法を公表し貸与申請を受け付けている。貸与期間2年以上の楽器貸与先の選考は、欧・米・アジアの有識者で構成される諮問機関である楽器貸与委員会でも毎年行っている。

楽器貸与委員会の審議対象外として、1997年よりベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクールのヴァイオリン部門優勝者に次期コンクールまでの期間、ストラディヴァリウス1708年製ヴァイオリン「ハギンス」を副賞として貸与している。また、デビュー公演、周年記念公演、レコーディング等の具体的な演奏活動目的がある演奏家への1年以内の貸与も行っている。

貸与区分、貸与期間、年齢制限などの申請条件等の詳細については、下記のとおり定めている。本年度も申請者から提出された書類及び動画は、楽器貸与委員による事前審査及び楽器貸与委員会での討議を経て、新規の被貸与者を選定した。

なお、貸与期間の上限を 7 年と定めた 2018 年以前より楽器を貸与している被貸与者（旧長期貸与区分）については、演奏活動に支障が出ないように協議の上、楽器の返却時期を決定している。

区分	貸与期間	貸与楽器配分の日安	申請条件	貸与決定方法
A	7 年以内	保有楽器数の 70%	申請年の 9 月 1 日時点で 35 歳以下の者 (クァルテットは、4 名の平均が 40 歳以下)	楽器貸与委員会での選考を経て会長決裁
B	3 年以内	保有楽器数の 15%	日本を拠点に演奏活動している者 申請年の 9 月 1 日時点で 35 歳以下の者 (クァルテットは、4 名の平均が 40 歳以下)	
C	1 年以内	保有楽器数の 10%	具体的な演奏活動の目的がある者 (例: デビュー公演・周年記念公演・レコーディング・コンクール等)	会長決裁
D	次期コンクール開催時まで	保有楽器数の 5%	エリザベート王妃国際音楽コンクールヴァイオリン部門優勝者	

(1) 楽器貸与委員会

事前審査を経て下記のとおり本審査を実施した。

開催日時 2022 年 7 月 12 日 (火) 13:00～15:10
 場 所 日本財団ビル内 2 階会議室 (東京都港区赤坂 1-2-2)
 楽器貸与委員 巻末別紙 2 のとおり
 財団保有楽器 巻末別紙 3 のとおり
 審議事項 新規貸与申請について
 報告事項 現在の貸与状況について

会議結果

- ① 新規貸与 (ヴァイオリン 2 名、チェロ 1 名)
 ヴァイオリン 5 名、チェロ 1 名の貸与申請があった。
 審査の結果、下記のとおり区分 A に 3 名が選定された。
 ヴァイオリン 2 名
 - ・金川真弓 (アメリカ国籍、ドイツ在住) に 3 年
 - ・Lun Li (中国国籍、アメリカ在住) に 5 年
 チェロ 1 名
 - ・Camille Thomas (ベルギー国籍、フランス在住) に 2 年
- ② 現被貸与者の貸与状況が確認された。

(2) 楽器の貸与状況

本年度における保有楽器 21 挺の貸与状況は下記のとおりであり、年度末現在の貸与先は巻末別紙 4 のとおり。

①～④ Stradivarius “Paganini Quartet”

被貸与団体 Goldmund Quartet

①1680年製 Violin Pinchas Adt (ドイツ・ミュンヘン在住)

②1727年製 Violin Florian Schötz (ドイツ・ヴュルツブルク在住)

③1731年製 Viola Christoph Vandory (ドイツ・ミュンヘン在住)

④1736年製 Cello Raphael Paratore (ドイツ・ミュンヘン在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計 56回 (聴衆約 24,600名)

2019年度の楽器貸与委員会で貸与区分 A の被貸与団体として貸与が合意され、2019年8月28日(うち3名は2019年9月27日)より貸与を開始した。2023年8月27日(うち3名は2023年9月26日)(貸与期間4年)まで貸与予定。

⑤ Stradivarius 1700年製 Violin “Dragonetti”

被貸与者 Veronika Eberle (ドイツ・ベルリン在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計 30回 (聴衆約 56,700名)

2009年5月11日より短期貸与を開始し、2009年度の楽器貸与委員会にて長期の被貸与者として承認された。2023年12月31日(貸与期間14年8ヶ月)まで貸与予定。当該楽器で録音したCDをリリースした。

⑥ Stradivarius 1702年製 Violin “Lord Newlands”

被貸与者 Suyoen Kim (ドイツ・ベルリン在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計 37回 (聴衆約 49,600名)

2014年度の楽器貸与委員会にて長期の被貸与者として承認され、2015年1月20日より貸与を開始した。2023年8月31日(貸与期間8年8ヶ月)まで貸与予定。

⑦ Stradivarius 1708年製 Violin “Huggins”

被貸与者 Stella Chen (アメリカ・ニューヨーク在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計 42回 (聴衆約 28,900名)

2019年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクールの優勝者であり、副賞として2019年5月28日より次期コンクール開催2024年4月までの約5年の貸与予定。(通常4年ごとの開催のコンクールだが新型コロナウイルス感染症拡大により1年延期された)

コロナ禍のATAカルネ対応のため2020年9月に貸与を一時中断し、日本へ楽器を戻し当財団で保管したが、渡航制限の緩和により2022年8月17日(貸与中断期間1年11ヶ月)に貸与を再開した。

⑧ Stradivarius 1709年製 Violin “Engleman”

被貸与者 Timothy Chooi (アメリカ・フィラデルフィア在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計 27回 (聴衆約 14,400名)

2020年度の楽器貸与委員会にて貸与区分 A の被貸与者として貸与が合意されたが、コロナ禍の渡航制限により貸与開始が遅れ、2022年6月6日より貸与を開始した。2029年6月5日(貸与期間7年)まで貸与予定。当財団の演奏会(後述)に出演した。

⑨ Stradivarius 1710 年製 Violin “Camposelice”

1) 被貸与者 Svetlin Roussev (ブルガリア・ルセ在住)

2012年1月15日より Stradivarius 1715 年製 Violin “Joachim”を短期貸与し、2012年2月8日に当該楽器に変更した。2012年度の楽器貸与委員会にて長期の被貸与者として2021年8月31日までの貸与が承認されたが、新型コロナウイルス感染症拡大による渡航制限が解除されるまで貸与を延長していた。2021年11月より楽器商に預けて当該楽器を使用していなかったことにより期間を遡り、貸与終了時期を2021年11月に変更した。(貸与期間9年10ヶ月、通算貸与期間計9年11ヶ月)

2) 被貸与者 María Dueñas (オーストリア・ウィーン在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計2回(聴衆約6,500名)

2019年7月12日より貸与区分Cで Guarneri del Gesù 1736年製 “Muntz”を貸与していたが、2020年度楽器貸与委員会において貸与区分Aの被貸与者として選出され、貸与区分Cでの貸与終了後から4年の貸与が合意された。その後、2022年11月16日に貸与楽器を当該楽器に変更し、2025年1月11日(貸与期間2年2ヶ月、通算貸与期間計5年2ヶ月、貸与中断期間4ヶ月除く)まで貸与予定。

⑩ Stradivarius 1714 年製 Violin “Dolphin”

被貸与者 Ray Chen (アメリカ・フィラデルフィア在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計56回(聴衆約133,500名)

2009年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール優勝者であり、副賞として2009年6月2日から Stradivarius 1708年製 Violin “Huggins”を貸与していたが、他団体からも楽器貸与を受けていたため、2010年9月8日(貸与期間1年3ヶ月)で楽器貸与を中断した。その後、他団体からの貸与が終了したため、2012年4月11日より Stradivarius 1702年製 Violin “Lord Newlands”(貸与期間2年2ヶ月)、2014年6月19日より Stradivarius 1715年製 Violin “Joachim”(貸与期間5年4ヶ月)を貸与。2019年10月23日より Stradivarius 1735年製 Violin “Samazeuilh”を2022年8月31日まで貸与予定であったが、コロナ禍の渡航制限によりATAカルネの更新が困難なため、2020年9月に貸与を一時中断し、日本へ楽器を戻し当財団で保管した。その後、渡航制限が緩和された2022年9月5日に貸与楽器を当該楽器に変更し貸与を再開した。コロナ禍の中断期間を考慮し貸与期間を2024年7月31日(貸与期間1年11ヶ月、通算貸与期間計10年8ヶ月、貸与中断期間3年6ヶ月を除く)まで貸与予定。

⑪ Stradivarius 1715 年製 Violin “Joachim”

1) 被貸与者 Angelo Xiang Yu (中国・上海在住)

2019年度の楽器貸与委員会にて貸与区分Aの被貸与者として7年の貸与が合意され、2019年11月1日より貸与を開始し、2026年10月31日まで貸与予定であったが、コロナ禍のATAカルネ対応のため、2020年9月に貸与を一時中断し、日本へ楽器を戻し当財団内で保管した。その後、2022年4月の渡航制限の緩和に伴い貸与再開を打診したところ、当財団が楽器の持込を禁止している中国での活動が大半を占めることがわかったため、相互協議の上、状況が変わるまでの間、楽器の貸与を中止することとなった。(貸与期間11ヶ月)

2)被貸与者 前田妃奈(東京在住)
貸与期間 2022年8月31日～2023年8月30日(1年)予定 貸与区分 C
国際コンクール出場及び演奏活動のため
当該楽器を使用しての演奏合計 23回(聴衆約 17,600名)
2022年10月開催のヘンリック・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリン・コンクールでは、
当該楽器を使用して優勝し、特別賞を受賞した。

⑫ Stradivarius 1716年製 Violin “Booth”

被貸与者 吉田 南(アメリカ・ボストン、東京在住)
当該楽器を使用しての演奏 合計 14回(聴衆約 5,500名)
2020年度の楽器貸与委員会にて貸与区分 B の被貸与者として貸与が合意され、
2021年8月10日に貸与を開始し、2024年8月9日(貸与期間3年)まで貸与予定。

⑬ Stradivarius 1717年製 Violin “Sasserno”

被貸与者 Ji Young Lim(韓国・ソウル在住)
当該楽器を使用しての演奏 合計 15回(聴衆約 16,300名)
2015年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクールの優勝者であり、副賞として
Stradivarius 1708年製 Violin “Huggins”を2015年6月2日より2019年3月28日まで
(3年10ヶ月)貸与。本人より貸与延長の申請があり、2018年度の楽器貸与委員会
で貸与区分 A の被貸与者として合意され、2019年3月28日より当該楽器を貸与開
始した。コロナ禍での渡航制限により ATA カルネの更新が困難なため、2022年1月
に貸与を一時中断し、日本へ楽器を戻し当財団で保管した。渡航制限が緩和された
後、5月16日より貸与を再開し、中断した期間とコロナ禍で延期された演奏会を考慮
して2023年5月15日(貸与期間3年10ヶ月、通算期間計7年8ヶ月:貸与中断期
間4ヶ月を除く)まで貸与予定。

⑭ Stradivarius 1722年製 Violin “Jupiter”

被貸与者 外村理紗(アメリカ・ニューヨーク、東京在住)
当該楽器を使用しての演奏 合計 29回(聴衆約 7,600名)
2021年度の楽器貸与委員会にて貸与区分 A の被貸与者として貸与が合意され、
2022年1月12日より貸与を開始し、2027年1月11日(貸与期間5年)まで貸与予
定。当財団の協力事業(後述)に出演した。

⑮ Stradivarius 1725年製 Violin “Wilhelmj”

被貸与者 金川真弓(ドイツ・ベルリン在住)
当該楽器を使用しての演奏 合計 30回(聴衆約 22,000名)
2022年度の楽器貸与委員会にて貸与区分 A の被貸与者として貸与が合意され、
2022年9月6日より貸与を開始し、2025年9月5日(貸与期間3年)まで貸与予定。
当該楽器を使用した CD をリリースした。

⑯ Stradivarius 1735年製 Violin “Samazeuilh”

被貸与者 Lun Li(アメリカ・ニューヨーク在住)
当該楽器を使用しての演奏 合計 24回(聴衆約 7,200名)

2022年度の楽器貸与委員会にて貸与区分 A の被貸与者として貸与が合意され、2022年9月6日より貸与を開始し、2027年9月5日(貸与期間5年)まで貸与予定。

⑰ Stradivarius 1736 年製 Violin “Muntz”

1) 被貸与者 Yuki Manuela Janke (ドイツ・ハゼルバッハタール在住)

2007年度の楽器貸与委員会にて長期の被貸与者として承認され、2007年11月2日より貸与を開始した。2021年2月5日まで貸与予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う渡航制限により、制限が解除されるまで貸与を延長した。2022年5月9日に貸与を終了。(貸与期間14年6ヶ月)

2) 被貸与者 吉本梨乃 (オーストリア・ウィーン在住)

貸与期間 2022年11月16日～2023年8月31日(10ヶ月) 予定 貸与区分 C
日本及びオーストリア・ウィーンでの演奏会のため
当該楽器を使用しての演奏 合計9回(聴衆約3,000名)

⑱ Stradivarius 1696 年製 Cello “Lord Aylesford”

被貸与者 Pablo Ferrández (スペイン・トレドネス在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計12回(聴衆約20,600名)

2013年度の楽器貸与委員会にて長期の被貸与者として承認され、2014年1月17日より貸与を開始し、2024年7月31日(貸与期間10年7ヶ月)まで貸与予定。当該楽器で録音したCD及びLPレコードをリリースした。

⑲ Stradivarius 1730 年製 Cello “Feuermann”

被貸与者 Camille Thomas (フランス・パリ在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計46回(聴衆約56,700名)

2019年9月24日より貸与区分 C で貸与し、新型コロナウイルス感染症拡大による公演中止等を考慮し、貸与期間を6ヶ月間延長した。その後、2020年度の楽器貸与委員会において、貸与区分 A の被貸与者として、貸与区分 C での貸与期間終了後から2年の貸与が合意された。2022年度の楽器貸与委員会にて2年延長が合意され、2025年3月23日(貸与期間5年6ヶ月)まで貸与予定。当財団の演奏会(後述)に出演した。当該楽器で録音したLPレコードをリリースした。

⑳ Guarneri del Gesù 1736 年製 Violin “Muntz”

被貸与者 María Dueñas (オーストリア・ウィーン在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計1回(聴衆約2,400名)

2019年7月12日より貸与区分 C で貸与中であつたが、新型コロナウイルス感染症拡大による公演中止等を考慮し、貸与期間を6ヶ月間延長した。その後、2020年度の楽器貸与委員会において、貸与区分 A の被貸与者として4年の貸与が合意された。2021年5月に開催されたユーディ・メニューイン国際コンクールで当該楽器を使用して優勝した。本年度財団主催演奏会に出演を予定していたが、体調不良のため公演を中止した。当該演奏会の来日時にATAカルネの更新を予定していたため貸与を一時中断(2022年4月19日～2022年8月31日)し、ATAカルネの手続きのため日本に楽器を戻し貸与中断期間は当財団で保管した。

同氏への当該楽器の貸与は2022年11月16日に終了(貸与期間3年、貸与中

断期間 4 ヶ月除く)し、貸与楽器を Stradivarius 1710 年製 Violin “Camposelice” に変更した。

②① Guarneri del Gesù 1740 年製 Violin “Ysaÿe”

1) 被貸与者 Sergey Khachatryan (ドイツ・エッシュボルン在住)

2005 年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール優勝者であり、2005 年 5 月 31 日より 2009 年 4 月 7 日までコンクールの副賞として Stradivarius 1708 年製 Violin “Huggins” が貸与 (3 年 10 ヶ月) された。その後本人からの貸与の申請を受け、Stradivarius 1702 年製 Violin “Lord Newlands” を 2009 年 4 月 7 日より貸与。2010 年 10 月 27 日より当該楽器へ変更し 2020 年 12 月 31 日まで貸与予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う渡航制限により、制限が解除されるまで貸与を延長し、2022 年 5 月 8 日に貸与を終了した。(貸与期間 11 年 6 ヶ月、通算貸与期間計 17 年)

2) 被貸与者 Benjamin Beilman (アメリカ・ニューヨーク在住)

当該楽器を使用しての演奏 合計 43 回 (聴衆約 35,100 名)

2016 年度の楽器貸与委員会にて長期の被貸与者として承認され、Stradivarius 1709 年製 “Engleman” を 2016 年 12 月 7 日より 2023 年 12 月 6 日 (貸与期間 7 年) まで貸与予定であったが、コロナ禍の渡航制限により ATA カルネの更新が困難なため、2020 年 9 月に貸与を一時中断した。2022 年 6 月 15 日に渡航制限が緩和され貸与を再開する際に当該楽器に変更した。貸与期間はコロナ禍で中断した期間を考慮し、2025 年 8 月 6 日 (当該楽器の貸与 3 年 2 ヶ月、通算貸与期間計 7 年: 貸与中断期間 1 年 9 ヶ月を除く) まで貸与予定。当財団の演奏会 (後述) に出演した。

3. 演奏会の開催

当財団楽器の被貸与者による演奏会を下記のとおり実施した。(13 公演のうち 12 公演実施、1 公演中止)

① 演奏会の定期開催 (5 公演)

演奏会の集客力を高めるための有効な方法の一つとして、演奏会の定期開催を 2017 年度より開始した。

(1) 浦安市との共同コンサート (日程及び出演者を変更し実施)

2016 年 12 月に浦安市と当財団間で双方が保有する音楽資源を有効に活用し、共同でコンサートを実施する協定を締結し、2017 年度より演奏会を定期的に開催しており、本年度で 6 回となった。詳細は下記のとおりである。

当日の実録 CD 制作、動画を YouTube で配信した。

名 称	Camille Thomas Cello Recital
日 時	2022 年 6 月 29 日 (水) 19:00 開演
会 場	J:COM 浦安音楽ホール (千葉県浦安市) (303 席)
主 催	(公財) 日本音楽財団、浦安市
共 催	J:COM 浦安音楽ホール
助 成	(公財) 日本財団

出 演 Camille Thomas Stradivarius 1730 年製 Cello “Feuermann”使用
萩原麻未 ピアノ

曲 目 ラヴェル:2つのヘブライの歌より 第1曲「カディッシュ」
グリーグ:チェロ・ソナタ イ短調 作品36
ラフマニノフ:チェロ・ソナタ ト短調 作品19

入 場 料 市民優先 4,000 円、一般 5,000 円

来場者数 243 名(招待 91 名含)

チケット売上 200,000 円
(チケット売上:市民優先 4,000 円×85 枚、一般 5,000 円×72 枚)
※浦安市がチケット収入を受け入れ、浦安市民の文化芸術活動の普及
振興に使われる。

(2)～(5)小規模編成のストラディヴァリウス・コンサート 2022

英語表題「Encounter with Stradivari 2022」

当財団は、保有するストラディヴァリウス 10 挺以上を使用する「ストラディヴァリウス・コンサート」を 4 年に一度開催している。その間の 3 年は、ストラディヴァリウス数挺を使用して小規模編成の「ストラディヴァリウス・コンサート」を定期開催している。名器の音色と質の高いクラシック音楽を披露し、各開催地におけるクラシック音楽の振興・普及に寄与すると共に、当財団の事業を広く周知広報することに努めている。

本年度の開催詳細は下記とおりである。東京公演の実録 CD 制作及び動画を YouTube で一部配信した。

出 演 Goldmund Quartet Stradivarius “Paganini Quartet”被貸与団体
Florian Schötz (1st vn) Stradivarius 1727 年製 Violin “Paganini”使用
Pinchas Adt (2nd vn) Stradivarius 1680 年製 Violin “Paganini”使用
Christoph Vandory Stradivarius 1731 年製 Viola “Paganini”使用
Raphael Paratore Stradivarius 1736 年製 Cello “Paganini”使用

曲 目 (プログラム A)
ハイドン:弦楽四重奏曲第 67 番 ニ長調 作品 64-5「ひばり」
ショスタコーヴィチ:弦楽四重奏曲第 8 番 ハ短調 作品 110
シューベルト:弦楽四重奏曲第 14 番 D810「死と乙女」

(プログラム B)
ウェーベルン:弦楽四重奏のための緩徐楽章
メンデルスゾーン:弦楽四重奏曲第 4 番 ホ短調 作品 44-2
プッチーニ:弦楽四重奏曲 嬰ハ短調「菊」
ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第 6 番 変ロ長調 作品 18-6

(2)(3)東京公演

日 時 2022 年 10 月 7 日(金) 19:00 開演
10 月 8 日(土) 14:00 開演

会 場 サントリーホール ブルーローズ (380 席)(東京都港区)

主 催 (公財)日本音楽財団、
(公財)サントリー芸術文化財団サントリーホール

助 成 (公財)日本財団
曲 目 プログラム A(10/7)
プログラム B(10/8)
入 場 料 4,500 円(正面席)、3000 円(サイトビュー席)
チケット売上(2,668,500 円)は、(公財)サントリー芸術文化財団サントリー
ホール収入とし、同ホールの行う公益事業に使われる。
来場者数 351 名(10/7)、355 名(10/8)

(4) 鳥取公演

日 時 2022 年 10 月 10 日(月・祝) 14:00 開演
会 場 倉吉未来中心 大ホール (1219 席)(鳥取県倉吉市)
主 催 (公財)日本音楽財団、(公財)鳥取県文化振興財団
助 成 (公財)日本財団
特別後援 (株)新日本海新聞社、日本海テレビジョン放送(株)
後 援 鳥取県、鳥取県、倉吉市、三朝町、湯梨浜町、北栄町、琴浦町、鳥取県
教育委員会、倉吉市教育委員会、三朝町教育委員会、湯梨浜町教育委
員会、北栄町教育委員会、琴浦町教育委員会
曲 目 プログラム A
入 場 料 S 席 4,000 円、A 席 3,000 円(18 歳以下 S 席 2,000 円/A 席 1,500 円)
チケット売上(3,063,500 円)は、(公財)鳥取県文化振興財団の収入とし、
同財団の行う公益事業に使われる。
来場者数 938 名

(5) 大阪公演

日 時 2022 年 10 月 12 日(水) 19:00 開演
会 場 住友生命いずみホール (821 席)(大阪府大阪市)
主 催 (公財)日本音楽財団
住友生命いずみホール[(一財)住友生命福祉文化財団]
助 成 (公財)日本財団
曲 目 プログラム A
入 場 料 一般 4,400 円、友の会 3,400 円、学生券 2,200 円
チケット売上(860,720 円)は、住友生命いずみホール[(一財)住友生命
福祉文化財団]の収入とし、同ホールの行う公益事業に使われる。
来場者数 337 名

② 全国のオーケストラとの共同事業(6 公演)

2020 年度より(公社)日本オーケストラ連盟(正会員:25 団体、準会員:13 団体)との共同事業として、全国のオーケストラの主催する公演に当財団楽器の被貸与者がソリストとして出演協力している。

本事業を通じて双方が保有する音楽資源を有効に活用し、当財団の楽器の被貸与者及び各楽団のレベル向上につながり、また、実施した 6 公演に学生(ヤングシート席を含む)計 356 名を招待し、若者がクラシック音楽に触れる機会を提供するとともに、次世代の

音楽文化の担い手の育成にも貢献した。

実録 CD を作成し、関係者へ配布することで当財団の事業の周知広報に努めた。

(6) 東京都交響楽団との共演

日 時 2023 年 2 月 19 日(日) 14:00 開演
会 場 東京芸術劇場コンサートホール(1,999 席)(東京都豊島区)
主 催 (公財)東京都交響楽団
協 力 (公財)日本音楽財団
特別協力 (公財)日本財団
指 揮 Yan Pascal Tortelier(ヤン・パスカル・トルトゥリエ)
出 演 Benjamin Beilman Guarneri del Gesù 1740 年製 Violin “Ysaÿe”使用
演奏曲 ラロ:ヴァイオリン協奏曲第 2 番 ニ短調 作品 21 「スペイン交響曲」
来場者数 1,511 名(うちヤングシート招待 118 名)

(7) 奈良フィルハーモニー管弦楽団との共演

日 時 2023 年 2 月 25 日(土) 13:30 開演
会 場 奈良県文化会館国際ホール(1,189 席)(奈良県奈良市)
主 催 (特非)奈良フィルハーモニー管弦楽団
協 力 (公財)日本音楽財団
特別協力 (公財)日本財団
後 援 奈良県、奈良市、大和郡山市、奈良新聞社、朝日新聞奈良総局、読売新聞奈良支局、毎日新聞奈良支局、産経新聞社、奈良フィル友の会、大和郡山市音楽芸術協会
指 揮 栗辻 聡
出 演 Benjamin Beilman Guarneri del Gesù 1740 年製 Violin “Ysaÿe”使用
演奏曲 チャイコフスキー:ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品 35
来場者数 556 名(うち学生招待 34 名)

(8)(9) 富士山静岡交響楽団との共演 2 公演

日時・会場 ①2023 年 3 月 4 日(土) 14:00 開演
静岡市清水文化会館マリナート大ホール(1,513 席)(静岡県清水市)
②2023 年 3 月 5 日(日) 14:00 開演
アクティシティ浜松 中ホール(1,030 席)(静岡県浜松市)
主 催 (公財)富士山静岡交響楽団
共 催 (公財)浜松市文化振興財団(浜松公演)
協 力 (公財)日本音楽財団
特別協力 (公財)日本財団
後 援 静岡県、静岡市(静岡公演)、浜松市(浜松公演)
指 揮 高関 健
出 演 Timothy Chooi Stradivarius 1709 年製 Violin “Engleman”使用
演奏曲 プロコフィエフ:ヴァイオリン協奏曲 第 2 番 ト短調 作品 63

来場者数 3/4 483名(うち学生招待98名)
3/5 346名(うち学生招待76名)

(10) 日本センチュリー交響楽団との共演

日 時 2023年3月9日(木) 19:00開演
会 場 ザ・シンフォニーホール(1,704席)(大阪府大阪市)
主 催 (公財)日本センチュリー交響楽団
協 力 (公財)日本音楽財団
特別協力 (公財)日本財団
指 揮 川瀬賢太郎
出 演 Timothy Chooi Stradivarius 1709年製 Violin “Engleman”使用
演奏曲 コルンゴルト: ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35
来場者数 約1,250名(うち学生招待7名)

(11) 中部フィルハーモニー交響楽団との共演

日 時 2023年3月11日(土) 15:00開演
会 場 小牧市市民会館(1,334席)(愛知県小牧市)
主 催 (特非)中部フィルハーモニー交響楽団
共 催 (一財)こまき市民文化財団
協 力 (公財)日本音楽財団
特別協力 (公財)日本財団
後 援 (株)中日新聞社
指 揮 田中祐子
出 演 Timothy Chooi Stradivarius 1709年製 Violin “Engleman”使用
演奏曲 サラサーテ: ツィゴイネルワイゼン 作品20
マスネ: タイスの瞑想曲
サン＝サーンス: 序奏とロンド・カプリチオーソ 作品28
来場者数 676名(うち学生招待23名)

③NHK 交響楽団との共演(公演中止)

2021年5月にメニューイン国際コンクールで優勝した被貸与者のマリア・ドウエニャスの日本デビュー・コンサートとして NHK 交響楽団との共演を下記のとおり予定したが、出演者が体調不良のため急遽中止とした。

(12) 名 称 マリア・ドウエニャス&N響スペシャルコンサート

日 時 2022年4月26日(火) 19:00開演
会 場 東京芸術劇場コンサートホール (1,999席)(東京都豊島区)
主 催 (公財)日本音楽財団
共 催 (公財)NHK 交響楽団、認定NPO法人マギーズ東京
助 成 (公財)日本財団
出 演 María Dueñas Guarneri del Gesù 1736年製 Violin “Muntz”貸与

指 揮 山田和樹

④協力事業

(公財)笹川平和財団の要請により下記のとおりスペシャル・コンサートを実施した。

(13) 名 称 北極サークル日本フォーラム「ジャパン・ナイト」
ストラディヴァリウス・スペシャル・コンサート
日 時 2023年3月4日(土) 17:30～18:00
会 場 虎ノ門ヒルズフォーラム(東京都港区)
主 催 (公財)笹川平和財団、(公財)日本財団、北極サークル事務局
協 力 (公財)日本音楽財団
出 演 外村理紗 Stradivarius 1722年製 Violin “Jupiter”使用
演奏曲 バッハ:無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第3番 ホ長調 BWV1006
第1楽章、第3楽章
イザイ:無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第3番 ニ短調 作品27「バラード」
さくら(マリア・カネコ・ミラー編曲)
パガニーニ:24のカプリース 作品1より 第11番 ハ長調
来場者数 約320名

4. 音楽文化振興・普及のための助成

「弦楽器演奏における音楽的、技術的向上に資する事業」、「より多くの人々に優れた弦楽器演奏を鑑賞する機会を提供する事業」を対象として事業を公募し、有識者で構成される諮問委員会である事業運営委員会において、若手弦楽器奏者育成、公益性、運営力、創造性、緊要度の5つの要件から総合的に判断して助成先を選定した。

年度初めに実施される事業にも対応するため、前年度中に委員会を開催している。

2022年度事業運営委員会

開催日 2022年3月9日(水)14:00～16:00
場 所 日本財団ビル2階会議室(東京都港区赤坂1-2-2)
事業運営委員 巻末別紙2のとおり

事業運営委員会では、11事業6,000,000円の助成が採択されたが、2団体より収入増を理由に助成額の減額(計960,000円)の申し出があり、下記のとおり11事業に5,040,000円を助成した。

詳細(開催日順)は下記のとおり。

(1) 事業名 鱒を弾く
実施団体 nawaKIKAKU 実行委員会
日 程 2022年4月1日(金)
会 場 日立システムズホール仙台・コンサートホール(宮城)
助成額 200,000円

(2) 事業名 ヴィオラスペース 2022 vol.30 第 5 回東京国際ヴィオラコンクール
実施団体 東京国際ヴィオラコンクール実行委員会
日程・会場 ①2022 年 5 月 26 日(木)～6 月 2 日(木) 飛行船シアター(東京)
②2022 年 6 月 3 日(金)紀尾井ホール(東京)
③2022 年 6 月 4 日(土)TCM ホール(東京)
④2022 年 6 月 5 日(日)相愛大学本町学舎(大阪)
⑤2022 年 6 月 6 日(月)あいおいニッセイ同和損保
ザ・フェニックスホール(大阪)
⑥2022 年 6 月 8 日(水)宮城野区文化センターPaToNa ホール(宮城)
助成額 1,000,000 円

(3) 事業名 Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ 2022-23
実施団体 一般社団法人 Music Dialogue
日程・会場 ①2022 年 6 月 27 日(月)リハーサル、7 月 1 日(金)本番
中目黒 GT プラザホール/めぐろパーシモン小ホール(東京)
②2022 年 12 月 20 日(火)リハーサル、23 日(金)本番
中目黒 GT プラザホール/加賀町ホール(東京)
③2023 年 2 月 28 日(火)リハーサル、3 月 3 日(金)本番
中目黒 GT プラザホール/築地本願寺講堂(東京)
助成額 440,000 円

(4) 事業名 第 48 回木曾音楽祭
実施団体 木曾音楽祭実行委員会
日程 2022 年 8 月 26 日(金)～8 月 28 日(日)
会場 木曾文化公園文化ホール(長野)
助成額 500,000 円

(5) 事業名 QUARTET BIENNALE YOKOHAMA 2022
実施団体 横浜楽友会
日程・出演団体 ①2022 年 9 月 1 日(木) アルディッティ・クアルテット
②2022 年 9 月 5 日(月) アタッカ・クアルテット
③2022 年 9 月 13 日(火) クアルテット・エクセルシオ
④2022 年 9 月 30 日(金) タカーチ・クアルテット
⑤2022 年 10 月 11 日(火) クアルテット・インテグラ
⑥2022 年 10 月 24 日(月) ヴィジョン弦楽四重奏団
⑦2022 年 10 月 31 日(月) クアルテット・ベルリン＝トウキョウ
⑧2022 年 11 月 15 日(火) エスメ・クアルテット
会場 横浜市鶴見区民文化センター サルビアホール(神奈川)
助成額 300,000 円

(6) 事業名 プロジェクト Q・第 20 章～若いクアルテット、ハイドンに挑戦する
実施団体 プロジェクト Q 実行委員会

- 日程・会場 ①2022年10月3日(月) 東京音楽大学(池袋キャンパス)、
 ②2022年10月25日(火) 東京音楽大学(中目黒・代官山キャンパス)
 ③2022年11月20日(日) 上野学園
 ④2022年12月17日(土) 東京音楽大学(池袋キャンパス)
 ⑤2023年2月10日(金) 東京音楽大学
 ~12日(日) (中目黒・代官山キャンパス)TCM
 ⑥2023年3月11日(土) 東京音楽大学
 (中目黒・代官山キャンパス)TCM

助成額 1,000,000円

- (7)事業名 人気ソリスト達によるピアノトリオコンサート
 実施団体 公益財団法人広島市文化財団
 日程 2022年11月13日(日)
 会場 広島市東区民文化センターホール(広島)
 助成額 300,000円
- (8)事業名 黒川侑・佐藤晴真・阪田知樹ピアノトリオ vol.3
 実施団体 創
 日程 2022年12月10日(土)
 会場 京都府立府民ホール“アルティ”(京都)
 助成額 300,000円
- (9)事業名 過去と未来を繋ぐ室内楽コンサート Vol.1「変奏曲」
 実施団体 特定非営利活動法人ハマのJACK
 日程 2023年2月21日(火)
 会場 横浜みなとみらいホール 小ホール(神奈川)
 助成額 500,000円
- (10)事業名 Reise String Laboratory シリーズ
 実施団体 一般社団法人 Reise
 日程 2023年3月11日(土)
 会場 今福音楽堂(大阪)
 助成額 300,000円
- (11)事業名 オーケストラの日 2023
 実施団体 公益社団法人日本オーケストラ連盟
 日程 2023年3月31日(金)
 会場 東京文化会館大ホール及び小ホール(東京)
 助成額 200,000円

5. 広報活動

当財団の活動を広く周知するため、以下のような広報活動を展開している。

- (1) 財団パンフレット(日英併記)を作成し、関係する演奏会の会場などで広く一般に配布している。
- (2) ホームページや SNS(日英併記)にて、財団の事業活動全般について紹介している。
- (3) 財団主催演奏会の CD や動画を制作し、国内外の音楽関係機関、オピニオンリーダー等に配布、または演奏会動画を当財団 YouTube サイト等で配信している。本年度作成した CD 及び動画配信等は、以下のとおり。
- ①「吉田南&福間洸太郎デュオコンサート」動画配信(2022年1月19日東京収録)
 - ②「Camille Thomas Cello Recital」実録 CD を制作及び動画配信(2022年6月29日浦安収録)
 - ③ストラディヴァリウス・コンサート 2022(Goldemund Quartet 演奏会)実録 CD を制作及び動画一部配信(2022年10月7日、8日東京収録)
 - ④日本オーケストラ連盟との共同事業演奏会実録 CD を制作(2023年2月19日、2月25日収録: Benjamin Beilman 演奏)、(2023年3月4日、5日、9日、11日収録: Timothy Chooi 演奏)
- (4) 楽器被貸与者との間で締結している貸与契約書に以下の内容を明記し、当財団が実施する事業の周知・広報に協力を得ている。
- ①被貸与者は、報道機関のインタビューや演奏会プログラムにおいて、貸与楽器の名称並びに当該楽器が当財団から貸与されていることの実を周知・広報する。
 - ②貸与楽器による演奏が、CD、動画等の形で制作されるときは、被貸与者は、貸与楽器の名称並びに当該楽器が当財団から貸与されていることの実を当該制作物に明確に表示する。
 - ③被貸与者は、年に1度、3月末日までに前年4月からの演奏会(開催日、開催場所、演奏曲目、入場者数等)、CD、動画等制作に関する活動内容報告書を当財団に提出する。本年度中に貸与楽器を使用しリリースした CD 等は以下のとおり。
柳田 茄那子	Stradivarius 1735 年製 Violin “Samazeuilh”使用
CD「SUONO ETERNO」
Pablo Ferrández	Stradivarius 1696 年製 Cello “Lord Aylesford”使用
CD 及び LP レコード
「ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲他」
金川真弓	Stradivarius 1725 年製 Violin “Wilhelmj”使用
CD「RECITAL」

Camille Thomas Stradivarius 1730 年製 Cello “Feuermann”使用
LPレコード「CAMILLE THOMAS CELLO OF HOPE」
Veronika Eberle Stradivarius 1700 年製 Violin “Dragonetti”使用
CD「BEETHOVEN VIOLIN CONCERTO」

- (5) 2004 年 1 月より音楽専門衛星デジタルラジオ「ミュージックバード」の協力を得て当財団の主催演奏会の実録 CD の音源を放送し、保有する楽器の華麗な響きを不特定多数の人々に楽しんでもらい、財団が実施する事業の周知・広報を図ってきた。演奏会に近いストラディヴァリウスの音色を届けるために、可能な限り高音質な音源を提供する当財団専用の番組「ストラディヴァリウス・コンサート」として 2019 年 7 月よりスタートしたが、2022 年 12 月をもって「ミュージックバード」が放送終了し当該番組は終了した。

本年度における放送内容は下記のとおりである。

- 1) 放送日:2022 年 4 月 3 日(日)、4 月 9 日(土)(再放送)
「イースター with ストラディヴァリウス」
(オーストリア・ザルツブルグ モーツァルテウム大ホール 2004 年 4 月 4 日収録)
- 2) 放送日:2022 年 4 月 10 日(日)、4 月 16 日(土)(再放送)
「クレモナクアルテット&小菅優」
(浜離宮朝日ホール 2018 年 7 月 2 日収録)
- 3) 放送日:2022 年 5 月 1 日(日)、5 月 7 日(土)(再放送)
「諏訪内晶子ヴァイオリン・リサイタル」
(浜離宮朝日ホール 2012 年 1 月 19 日収録)
- 4) 放送日:2022 年 5 月 8 日(日)、5 月 14 日(土)(再放送)
「諏訪内晶子チャリティ・コンサート」
(浦安音楽ホール 2017 年 4 月 14 日収録)
- 5) 放送日:2022 年 5 月 15 日(日)、5 月 21 日(土)(再放送)
「エイジ・オブ・ストラディヴァリウス 2003」第 3 夜
(東京芸術劇場大ホール 2003 年 11 月 28 日収録)
- 6) 放送日:2022 年 6 月 5 日(日)、6 月 11 日(土)(再放送)
・「アンドレイ・バラノフ・ヴァイオリンリ・サイタル」
(浜離宮朝日ホール 2015 年 4 月 15 日収録)
・「イム・ジョン・ヴァイオリンリ・サイタル」
(浜離宮朝日ホール 2015 年 11 月 10 日収録)
- 7) 放送日:2022 年 6 月 12 日(日)、6 月 18 日(土)(再放送)
「エイジ・オブ・ストラディヴァリウス 2003」第 2 夜
(オペラシティホール 2003 年 11 月 27 日収録)
- 8) 放送日:2022 年 7 月 3 日(日)、7 月 9 日(土)(再放送)
・「キム・スーヤン・リサイタル」

- (浜離宮朝日ホール 2016年7月13日収録)
・「真夏の夜のコンサート」
(浜離宮朝日ホール 2005年8月4日収録)
- 9) 放送日:2022年7月10日(日)、7月16日(土)(再放送)
・「竹澤恭子&江口玲チャリティ・コンサート」
(トッパンホール 2009年12月8日収録)
・「竹澤恭子&江口玲チャリティ・コンサート」
(石川県立音楽堂邦楽ホール 2010年2月日収録)
- 10) 放送日:2022年7月31日(日)、8月6日(土)(再放送)
「吉田南&福間洸太郎デュオ・リサイタル」
(サントリーホールブルーローズ 2022年1月24日収録)
- 11) 放送日:2022年8月7日(日)、8月13日(土)(再放送)
・「アラベラ美歩シュタインバッハ・ヴァイオリンリサイタル」
(紀尾井ホール 2010年4月26日収録)
・「サマーコンサート 2015」
(浜離宮朝日ホール 2015年7月9日収録)
- 12) 放送日:2022年8月14日(日)、8月20日(土)(再放送)
・「アリーナ・ポゴストリーナ・ヴァイオリンリサイタル」
(三田市総合文化センター 郷の音ホール 2013年8月8日収録)
・「アリーナ・ポゴストリーナ・ヴァイオリンリサイタル」
(浜離宮朝日ホール 2017年10月17日収録)
- 13) 放送日:2022年9月4日(日)、9月10日(土)(再放送)
「ストラディヴァリウス・コンサート 2016」
(サントリーホール 2016年9月13日収録)
- 14) 放送日:2022年9月11日(日)、9月17日(土)(再放送)
・「東京クワルテット・リサイタル」
(浜離宮朝日ホール 2012年2月20日収録)
・「ハーゲン・クワルテット・リサイタル」
(浜離宮朝日ホール 2014年9月29日収録)
- 15) 放送日:2022年10月2日(日)、10月8日(土)(再放送)
「ストラディヴァリウス・コンサート 2008」
(サントリーホール 2008年9月9日収録)
- 16) 放送日:2022年10月9日(日)、10月15日(土)(再放送)
「ストラディヴァリウス・コンサート 2010」
(フランス・パリ・ルーヴル美術館オーディトリウム 2010年10月7日収録)
- 17) 放送日:2022年11月6日(日)、11月12日(土)(再放送)
・「ステイブーン・イッサーリス・チェロリサイタル」
(浜離宮朝日ホール 1998年10月26日収録)

- ・「スティーブン・イッサーリス・チェロリサイタル」
(紀尾井ホール 2011 年 5 月 16 日収録)
- 18) 放送日:2022 年 11 月 13 日(日)、11 月 19 日(土)(再放送)
「ストラディヴァリウス・コンサート 2019」
(サントリーホール小ホール 2019 年 10 月 31 日収録)
- 19) 放送日:2022 年 12 月 4 日(日)、12 月 10 日(土)(再放送)
 - ・「青少年のためのレクチャーコンサート:音楽における愛のかたち」
(秋田アトリオン音楽ホール 2011 年 11 月 11 日収録)
 - ・「青少年のためのレクチャーコンサート:大作曲家たちの友情と反目」
(秋田アトリオン音楽ホール 2012 年 11 月 6 日収録)
- 20) 放送日:2022 年 12 月 11 日(日)、12 月 17 日(土)(再放送)
 - ・「青少年のためのレクチャーコンサート:名曲への誘い」
(秋田アトリオン音楽ホール 2014 年 11 月 7 日収録)
 - ・「青少年のためのレクチャーコンサート:ベートーヴェンを聴こう」
(秋田アトリオン音楽ホール 2015 年 10 月 30 日収録)

(6) 音楽雑誌、新聞、その他マスメディア等の取材要請、財団保有楽器の写真提供要請に応え、財団の活動の周知・広報を図っている。

本年度における楽器貸与に係る主な掲載記事等の内容は以下のとおり。

- ① 「音楽の友」2022 年 8 月号 被貸与者インタビュー
- ② 「音楽の友」2023 年 1 月号 被貸与者インタビュー
- ③ オーストリア国立銀行のインタビュー協力(楽器貸与事業について)

III 総 務

1. 役員の変動

2022年6月24日開催の定時評議員会において、任期満了に伴う理事の改選により、重任6名、新任2名(伊東信一郎氏、澤和樹氏)が選任され同日就任した。また同日開催の第2回理事会において、代表理事(会長)1名、業務執行理事に2名(うち常務理事1名)を選定した。

2022年6月24日付で荒蒔康一郎評議員が一身上の都合により辞任した。
本年度末現在の理事・監事・評議員の名簿は巻末別紙1のとおりである。

2. 理事会

本年度は、理事会を下記のとおり3回開催した。

2022年度第1回理事会

開催日 2022年6月3日(金)14:00~15:00
場 所 日本財団ビル2階会議室(東京都港区赤坂1-2-2)
議決事項 第1号議案 2021年度事業報告及び収支決算について

2022年度第2回理事会

開催日 2022年6月24日(金)15:00~15:30
場 所 日本財団ビル8階会議室(東京都港区赤坂1-2-2)
議決事項 第1号議案 代表理事(会長、理事長)、業務執行理事2名
(うち1名は常務理事)の選定について
第2号議案 評議員会の招集について

2022年度第3回理事会

開催日 2023年3月3日(金)13:30~14:30
場 所 日本財団ビル2階会議室(東京都港区赤坂1-2-2)
議決事項 第1号議案 2023年度事業計画及び収支予算について
付帯決議案
事業計画の若干の字句の修正等は、会長に一任する
収支予算の金額の若干の変更及び科目間の流用は会長に一任する
第2号議案 諸規程の整備について
第3号議案 定時評議員会の招集について

3. 評議員会

本年度は、評議員会を下記のとおり2回開催した。

2022年度定時評議員会

開催日 2022年6月24日(金)13:30~14:20
場 所 日本財団ビル8階会議室(東京都港区赤坂1-2-2)

議決事項	第1号議案	2021年度事業報告及び決算について
	第2号議案	任期満了に伴う理事の選任について
	第3号議案	非常勤代表理事及び常勤理事の報酬について

2022年度臨時評議員会

開催日	2023年3月3日(金)15:00~15:40	
場所	日本財団ビル2階会議室(東京都港区赤坂1-2-2)	
議決事項	第1号議案	2023年度事業計画及び収支予算について 付帯決議案 事業計画の若干の字句の修正等は、会長に一任する 収支予算の金額の若干の変更及び科目間の流用は会長に一任する

4. 監事監査

2021年度事業報告及び収支決算について監事監査を行った。

開催日	2022年6月1日(水)14:00~15:00
場所	日本音楽財団内会議室(東京都港区赤坂1-2-2)

5. 登記事項

2022年7月12日 評議員の登記変更(1名削除)、理事の登記変更(2名追加)

6. 主務大臣(内閣府)への届出等

2022年4月21日	理事の登記事項変更届(1名削除)
2022年6月30日	2021年度事業報告書及び収支決算書提出
2022年8月18日	評議員の登記事項変更届(1名削除) 理事の登記事項変更届(6名重任、2名新任)
2023年3月27日	2023年度事業計画書及び収支予算書届

7. 外部監査の実施

永和監査法人に監査を委託し、期中監査を2023年3月17日に、期末監査を2023年4月27日、5月24日、25日に実施した。

8. 広報活動「ランチタイムコンサート」(中止)

「ランチタイムコンサート」(毎月第2、第4水曜日)は、当財団の事業を多くの人々に知ってもらう広報活動の一環として2019年より実施していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度に続き本年度も開催を中止した。

9. 事務局

事務所を東京都港区赤坂1-2-2日本財団ビル5階に置き、業務を遂行した。本年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として在宅勤務を一部採用した。

年度末現在の事務局役職員数は常勤役員2名、常勤職員5名、契約職員1名、計8名である。

以上

別紙 1

公益財団法人日本音楽財団理事・監事・評議員名簿

(2023年3月31日現在、敬称略)

会 長	海老沢 勝二	(代表理事)
常務理事	加納 民夫	常勤 (業務執行理事)
理 事	石川 礼子	常勤 (業務執行理事)
理 事	伊東 信一郎	ANA ホールディング(株)特別顧問
理 事	海老澤 敏	国立音楽大学名誉教授
理 事	門 野 泉	清泉女子大学名誉教授 (公財)東京財団政策研究所理事長
理 事	澤 和 樹	ヴァイオリニスト (公財)文化財保護・芸術研究助成財団理事長
理 事	福井 俊彦	元日本銀行総裁 (一財)キャノングローバル戦略研究所理事長
監 事	垣 見 隆	弁護士
監 事	吉村 貞彦	公認会計士
評議員	相川 直樹	慶應義塾大学名誉教授
評議員	尾形 武寿	(公財)日本財団理事長
評議員	清原 武彦	産経新聞社特別顧問
評議員	児玉 幸治	(一財)機械システム振興協会顧問
評議員	佐藤 隆文	元金融庁長官
評議員	白石 美雪	音楽学者、武蔵野美術大学教授
評議員	西村 朗	作曲家、東京音楽大学教授
評議員	畠山 向子	(公財)畠山記念館館長
評議員	藤井 宏昭	(独)国際交流基金顧問

委員名簿

(2023年3月31日現在、敬称略)

楽器貸与委員 (欧州・米国・アジアの代表で構成)

委員長	原田 幸一郎	ヴァイオリニスト、桐朋学園大学教授、 東京音楽大学特任教授
委員長代行	イヴァン・デ・ラオノア Yvan de Launoit	ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール 副理事長
委員	池辺 晋一郎	作曲家、東京音楽大学名誉教授
委員	アイダ・カヴァフィアン Ida Kavafian	ヴァイオリニスト、ジュリアード音楽院教授、 カーティス音楽院教授
委員	キム・カシュカシヤン Kim Kashkashian	ヴィオリスト、ニューイングランド音楽院教授
委員	クライブ・ギリンソン Clive Gillinson	カーネギーホール総支配人兼芸術監督
委員	ジョナサン・ノット Jonathan Nott	指揮者
委員	藤原 真理	チェリスト

事業運営委員

委員長	川本 統脩	日本大学芸術学部講師
委員	小倉 多美子	音楽ジャーナリスト、武蔵野音楽大学講師
委員	金子 建志	音楽評論家、日本レコードアカデミー賞選定委員長
委員	柴田 俊一	日本芸術文化振興会非常勤プログラムオフィサー、 元 NHK プロデューサー
委員	柴辻 純子	音楽評論家

日本音楽財団の保有楽器概要

(2023年3月31日現在)

Stradivarius "Paganini Quartet" 「パガニーニ・クアルテット」

1680年製 Violin 1727年製 Violin
1731年製 Viola 1736年製 Cello

アントニオ・ストラディヴァリ(1644～1737)製作による楽器で構成されたクアルテットは、世界で6セットの存在が知られている。このクアルテットはその一つであり、19世紀の伝説的なヴァイオリニスト、ニコロ・パガニーニ(1782～1840)が所有していたことでも有名である。

1994年4月に当財団はアメリカ・ワシントン D.C.のコーコラン美術館よりこのクアルテットを購入した。同美術館にこのクアルテットを寄贈した米国のアンナ・E・クラーク夫人の意志を受け継ぎ、当財団は4挺を常にセットとして四重奏団に貸与している。

Stradivarius 1700年製 Violin "Dragonetti" 「ドラゴネッティ」

このヴァイオリンはネックの部分までも製作当時のものが使用されているとても貴重な楽器である。著名なイタリアのコントラバス奏者ドメニコ・ドラゴネッティ(1763～1846)によって大切に所有されていたことから現在この名前と呼ばれている。当財団の購入直前には、世界的に名の知られているヴァイオリン奏者、フランク・ペーター・ツィンマーマン(1965～)によって演奏されていた。

2002年6月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1702年製 Violin "Lord Newlands" 「ロード・ニューランズ」

イギリスのニューランズ卿(1825～1906)によって生涯大切にされていたため、現在この名前と呼ばれている。1964年から1982年にこの楽器を保管していたロンドンのヒル商会が、1973年に英国バースの古楽器名器展にて、当時のヒル商会を代表する楽器としてこのヴァイオリンを展示していた。楽器の保存状態が優れているだけでなく、その音質の良さでも知られており、以前このヴァイオリンを演奏したアイザック・スターン(1920～2001)は、自身が所有しているグアルネリ・デル・ジェスと同じパワーを感じると語ったという。

2002年6月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1708年製 Violin "Huggins" 「ハギンス」

このヴァイオリンは、1870年代後半にフランスからウィーンにもたらされ、1882年頃、イギリスの天文学者ウィリアム・ハギンス卿(1824～1910)が購入し、所有していたことから「ハギンス」と呼ばれている。色艶も鮮やかで保存状態に優れている。当財団は

1997年よりベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門優勝者に副賞として次のコンクールまでこの楽器を貸与し、コンクールの発展と演奏家の技術向上に寄与している。

1995年3月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1709 年製 Violin "Engleman" 「エングルマン」

このヴァイオリンは、アメリカ海軍士官ヤング中佐が第二次世界大戦中に戦死するまで、約150年間ヤング家に大切に保管されていたため、保存状態が優れている。当財団が保有する以前は、アメリカのアマチュア・ヴァイオリン奏者で収集家のエフレイム・エングルマンが所有していたため、現在はこの名前で親しまれている。

1996年12月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1710 年製 Violin "Camposelice" 「カンポセリーチェ」

このヴァイオリンは、1880年代にフランスのカンポセリーチェ公爵の手に渡ったことから「カンポセリーチェ」と呼ばれている。1937年には、クレモナ古楽器名器展に当時この楽器を所有していたキューネ博士のコレクションとして展示された。当財団が購入する前は、30年間以上ベルギーのアマチュア奏者のもとで大切に保管されていた。

2004年9月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1714 年製 Violin "Dolphin" 「ドルフィン」

1800年代後半にこの楽器を所有していたジョージ・ハートは、光沢の美しい裏板のニスと華麗な見栄えが、優美なイルカが光り輝いている様を思わせることから「ドルフィン」という名前を付けた。音色並びに楽器の保存状態が優れており、1715年製「アロード」、1716年製「メシア」に並ぶストラディヴァリウスの三大名器の一つとされている。また、巨匠ヤツシャ・ハイフェッツ(1901～1987)が愛用していたことでも知られている。

2000年2月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1715 年製 Violin "Joachim" 「ヨアヒム」

この楽器は、有名なハンガリーのヴァイオリン奏者、ヨーゼフ・ヨアヒム(1831～1907)が所有していたストラディヴァリウス1715年製ヴァイオリン3挺の内の1つである。また、ヨアヒムからヴァイオリンのレッスンを受けていた彼の兄弟の孫娘アディラ・ダラーニ(d'Aranyi)に遺贈されたことから「ヨアヒム=アラーニ」という名前でも知られている。当財団が購入するまでは、アディラの遺族によって代々受け継がれてきた。

2000年9月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1716 年製 Violin "Booth" 「ブース」

1855年頃にイギリスのブース夫人が所有していたため、現在の名が付けられている。彼女はヴァイオリンの才能を発揮した2人の息子たちのためにストラディヴァリウスのクアルテットを形成しようと試み、この楽器を購入した。1931年にアメリカの名高いヴァイオリン奏者ミッシェル・ミシヤコフ(1896～1981)の手にわたり、1961年にはニューヨークのヘンリー・ホッティンガー・コレクションの一部となった。音色の美しさ、音の力強さにおいて知名度が高く、保存状態も優れている。

1999年1月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1717 年製 Violin "Sasserno" 「サセルノ」

1845年からフランスのサセルノ伯爵が所有していたことからこの名前と呼ばれている。1894年には、イギリスで有名な醸造所を所有していたピカリング・フィップスの手に渡った。1906年にはイギリスのヘンリー・サマーズが所有し、それ以後93年間にわたり同家で大切に保管されてきたため、製作時のままのニスが多く残っており保存状態が非常に優れている。

1999年5月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1722 年製 Violin "Jupiter" 「ジュピター」

このヴァイオリンは、1800年頃にイギリスの収集家ジェームス・ゴディングによって「ジュピター」と名付けられたといわれている。この楽器は大切に使用されてきたため保存状態が素晴らしく、オリジナルのニスも全体に残っている。

1998年5月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1725 年製 Violin "Wilhelmj" 「ウィルヘルミ」

1866年以降、約30年間この楽器を所有していたドイツの著名なヴァイオリン奏者、アウグスト・ウィルヘルミ(1845～1908)に因んでこの名前が付けられた。ウィルヘルミの所有していた数多くのヴァイオリンのうち最も愛用されていた楽器だったが、「演奏者としてベストなうちに引退したい」との理由で、50代の若さで楽器を手放したという。

2001年6月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1735年製 Violin "Samazeuilh" 「サマズィユ」

この楽器は1836年、楽器商のタリシオによってイタリアからフランスへ持ち込まれ、一時リヨンのシャポネー伯爵が所有していた。しかし、19世紀の終わりにロンドンのヒル商会の手に渡り、1901年、ヴァイオリニストのアーサー・ハートマン(1881～1956)へ売却された。1903年にはサマズィユ家が購入し、所有していたことから「サマズィユ」と呼ばれている。1923年に楽器を所有することになったヴァイオリンの巨匠ミッシェル・エルマン(1891～1967)は「ストラディヴァリウスの中で最高の音色を持つ楽器の1つ」と1926年に手紙に記している。楽器の内側のラベルには91歳(製作者の年齢)と書か

れている。

2017年8月に当財団が岡本夫妻の寄付と日本財団からの助成を合わせて購入したものである。

Stradivarius 1736 年製 Violin "Muntz" 「ムンツ」

楽器の内側に貼られたラベルにはストラディヴァリ本人の手書きで「d'anni 92 (92歳)」と書かれている珍しい楽器である。透明な黄褐色のニスに楽器のほぼ全体に綺麗に残っており、楽器の保存状態も音色も格段に優れている。1872年以降、英国バーミンガムの有名な収集家でアマチュアのヴァイオリン奏者のH.M.ムンツが所有していたため、「ムンツ」と呼ばれている。1737年に死去したストラディヴァリが、最晩年に製作した楽器の一つとして知られている。

1997年7月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1696 年製 Cello "Lord Aylesford" 「ロード・アイレスフォード」

イギリスのアマチュア奏者アイレスフォード卿が1780年代初期にイタリアの名高い音楽家のフェリーチェ・デ・ジャルディーニ(1716～1796)から購入し、その後アイレスフォード家に約100年間所有されていたことからこの名前が付けられた。1946年にはアメリカ・フィラデルフィア在住の世界的に著名なチェロ奏者グレゴール・ピアティゴルスキー(1903～1976)の手に渡り、1950年から1965年には巨匠ヤーノシュ・シュタルケル(1924～2013)によって演奏会や35枚のレコーディングのために使用された。

2003年6月に当財団が購入したものである。

Stradivarius 1730 年製 Cello "Feuermann" 「フォイアマン」

アントニオ・ストラディヴァリが製作したうち、現存するチェロは、約50挺といわれている。「フォイアマン」は普通のチェロと比べ、楽器本体の部分が細長い点の特徴である。世界的に著名なチェロ奏者、エマヌエル・フォイアマン(1902～1942)が1939年から長年にわたり使用したことから、この名前と呼ばれている。エマヌエル・フォイアマンは、斎藤秀雄(1902～1974)の師として日本でもよく知られている。

1996年12月に当財団が購入したものである。

Guarneri del Gesù 1736 年製 Violin "Muntz" 「ムンツ」

アントニオ・ストラディヴァリと並び称される名工、バルトロメオ・ジュゼッペ・グアルネリ(グアルネリ・デル・ジェス)(1698～1744)が製作したヴァイオリン。1736年製のストラディヴァイオリンも所有していたイギリスのアマチュア奏者で収集家のムンツが一時期所有していたことから、この名前が親しまれている。

1995年3月に当財団が購入したものである。

Guarneri del Gesù 1740 年製 Violin "Ysaÿe" 「イザイ」

この楽器はベルギーの国家的ヴァイオリン奏者、ウジェーヌ・イザイ(1858～1931)が所有していたことからこの名前が付けられた。楽器の中に貼られた小さなラベルには赤いインクで「このデル・ジェスは私の生涯を通じて忠実なパートナーだった。イザイ1928」とフランス語で書かれ、イザイの国葬の際には棺の前をクッションに載せられ行進したことで知られている。1965年に巨匠アイザック・スターン(1920～2001)の所有となり生涯愛用した。

1998年3月に当財団が購入したものである。

以上、当財団はストラディヴァリウス・ヴァイオリン15挺、ストラディヴァリウス・チェロ3挺、ストラディヴァリウス・ヴィオラ1挺、グアルネリ・デル・ジェス・ヴァイオリン2挺の合計21挺の弦楽器を保有している。

楽器名と被貸与者一覧

別紙 4

2023年3月31日現在

楽器名	被貸与者	備考	
貸与区分A(貸与期間満7年以内), B(貸与期間満3年以内)、旧長期貸与区分(貸与期間1年以上、区分記載なし)			
	Stradivarius "Paganini Quartet"	Goldmund Quartet	
1	1680年製 Violin "Paganini"	Pinchas Adt (Mr)	ミュンヘン在住 貸与区分A
2	1727年製 Violin "Paganini"	Florian Schötz (Mr)	ヴェルツブルク(ドイツ)在住 貸与区分A
3	1731年製 Viola "Paganini"	Christoph Vandory (Mr)	ミュンヘン在住 貸与区分A
4	1736年製 Cello "Paganini"	Raphael Paratore (Mr)	ミュンヘン在住 貸与区分A
5	Stradivarius 1700年製 Violin "Dragonetti"	Veronika Eberle (Ms)	ベルリン在住
6	Stradivarius 1702年製 Violin "Lord Newlands"	Suyoen Kim (Ms)	ベルリン在住
7	Stradivarius 1709年製 Violin "Engleman"	Timothy Chooi (Mr)	フィラデルフィア在住 貸与区分A
8	Stradivarius 1710年製 Violin "Camposelice"	María Dueñas (Ms)	ウィーン在住 貸与区分A 2019/7/12よりdel Gesu Muntz貸与 2022/11/16よりCamposelice貸与
9	Stradivarius 1714年製 Violin "Dolphin"	Ray Chen (Mr)	フィラデルフィア在住 2009年エリザベートコンクール優勝 Huggins貸与(2009/6/2-2010/9/8) 2012/4/11よりLord Newlands貸与 2014/6/19よりJoachim貸与 2019/10/23よりSamazeuilh貸与 2022/9/5より"Dolphin"貸与
10	Stradivarius 1716年製 Violin "Booth"	吉田 南 (Ms)	ボストン・東京在住 貸与区分B
11	Stradivarius 1717年製 Violin "Sasserno"	Ji Young Lim (Ms)	ソウル在住 貸与区分A 2015年エリザベートコンクール優勝者Huggins貸与 (2015/6/2-2019/3/28) 2019/3/28よりSasserno貸与
12	Stradivarius 1722年製 Violin "Jupiter"	外村理紗 (Ms)	ニューヨーク・東京在住 貸与区分A
13	Stradivarius 1725年製 Violin "Wilhelmj"	金川真弓 (Ms)	ベルリン在住 貸与区分A
14	Stradivarius 1735年製 Violin "Samazeuilh"	Lun Li (Mr)	ニューヨーク在住 貸与区分A
15	Stradivarius 1696年製 Cello "Lord Aylesford"	Pablo Ferrández (Mr)	トロトネス(スペイン)在住
16	Stradivarius 1730年製 Cello "Feuermann"	Camille Thomas (Ms)	パリ在住 貸与区分A
17	Guarneri del Gesù 1740年製 Violin "Ysaÿe"	Benjamin Beilman (Mr)	ニューヨーク在住 2016/12/7よりEngleman貸与 2022/6/6よりYsaÿe貸与
貸与区分C(貸与期間満1年以内)			
18	Stradivarius 1715年製 Violin "Joachim"	前田妃奈 (Ms)	東京在住 国際コンクール出場及び演奏活動のため
19	Stradivarius 1736年製 Violin "Muntz"	吉本梨乃 (Ms)	ウィーン在住 日本とウィーンでの演奏会のため
20	Guarneri del Gesù 1736年製 Violin "Muntz"		貸与終了後保管中
貸与区分D(ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール優勝者への次期コンクール開催までの貸与)			
21	Stradivarius 1708年製 Violin "Huggins"	Stella Chen (Ms)	ニューヨーク在住 2019年エリザベートコンクール優勝者

長期:区分A、B等17挺、短期:区分C3挺、コンクール:区分D 1挺 現在保有楽器 計21挺

上記のとおり2022年度事業報告書及び附属明細書を提出いたします。

2023(令和5)年5月31日

公益財団法人 日本音楽財団

会 長 海 老 沢 勝 二

①

2022年度事業報告書及び附属明細書を監査した結果、適正かつ妥当であると認めます。

2023(令和5)年5月31日

監 事 垣 見 隆

①

監 事 吉 村 貞 彦

①